

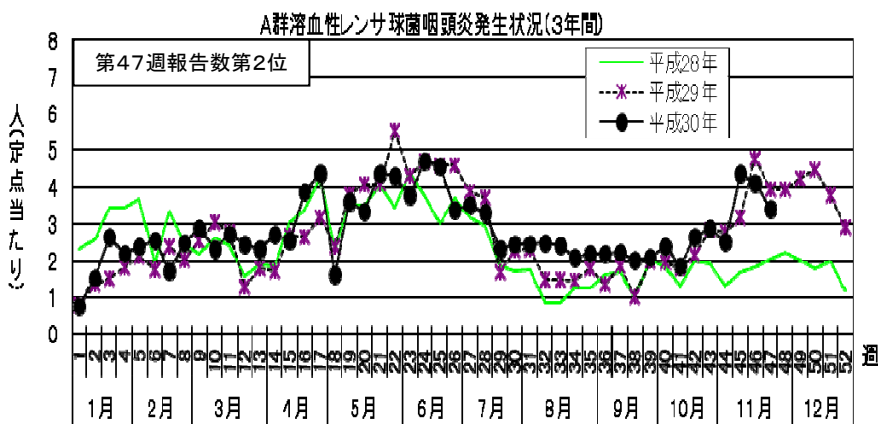
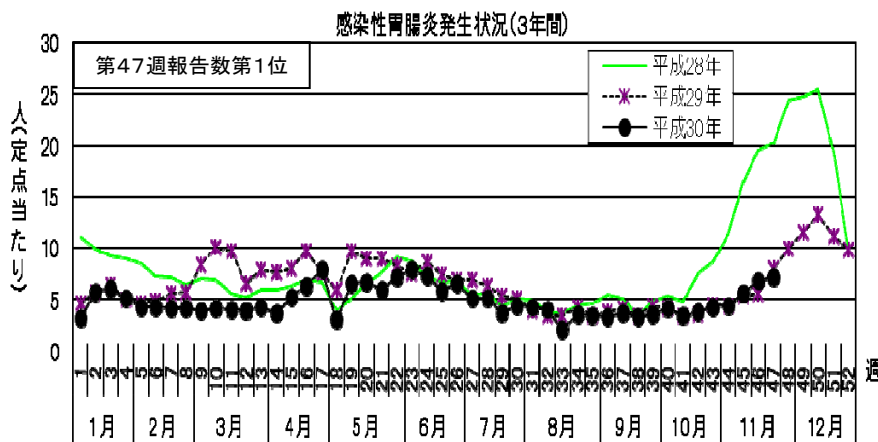
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月19日（月）～平成30年11月25日（日）〔平成30年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.22人と前週（6.86人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.41人と前週（4.11人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.78人と前週（2.44人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★溶連菌★
ヨーレンくん



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、主に冬季及び春から初夏にかけて流行がみられ、菌の侵入部位や組織によって多彩な症状を引き起こす細菌感染症です。川崎市では、平成30年6月以降、過去5年間の平均と比べてやや高いレベルで推移しています。現在、患者報告数はやや減少がみられるものの、今後再び増加する可能性もありますので、引き続き注意が必要です。

就学前後（4歳～7歳）の小児で発熱や咽頭痛などの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の症状

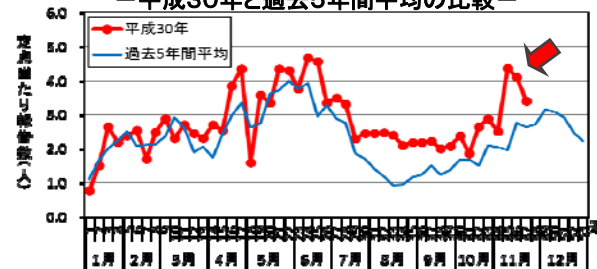
- 突然の発熱（38.5℃以上）
- 全身倦怠感
- 咽頭痛
- 莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）
- 体や手足に小さくて紅い点状発疹

※合併症として肺炎、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などを起こすことがあります。



基本的な治療は、抗生薬の投与です。処方された薬は、主治医の指示どおり服用し、最後までしっかりと飲みきりましょう。

川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況
—平成30年と過去5年間平均の比較—



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎
年齢階級別発生状況(平成30年第47週)

